

# 京町家と路地 残して活気を

## 工房やカフェ 西陣に複合拠点

京町家と細い路地を改修し、地域住民や観光客が集えるように再生した複合拠点が、京都市上京区浄福寺通一条下ルに誕生する。工房やカフェ、簡易宿所などが入居し、西陣がいわゆるにぎわい創出にもつなげる。

建物は明治期ごろに建設された集合住宅で、細い路地を挟んで平屋がコの字型に並んでいる。借り主が退去した後

り、屋根が落ちるほど荒廃していた。

家主の東寿弥さん(53)はマンションに建て替える計画を進めていたが、京町家を次代に残したいとの思いが強くなり、市の空き家相談会を訪れた。そこで不動産業フラットエージェンシー(北区)が風情ある路地を残すよう提案し、昨年春から改修計画を進めてきた。

町家には革製品の工房や女性の産後ケアを行う団体、4室の簡易宿所、コミュニティカフェなどが入居し、来年1月ごろにオープンする予定。路地には地蔵や井戸を残し、訪れた人が立ち話したり、子どもたちが遊んだりする場作りを目指す。

東さんは「人のつながりの大切さを発信できるような場になれば」と話す。

町家と路地の再生事例を広く紹介するため、10月20、21日の午前10時半〜午後3時に見学会を開催する。申し込みは京町家居住支援者会議contact@machiya-shien.net。当日受付も可能。

(森静香)



東さん夫妻が次代に残すことを決め、アート工房や簡易宿所、カフェなどが入居する予定の京町家と路地(京都市上京区浄福寺通一条下ル)